

具体項目

音楽

観点	発行者	教育出版	教育芸術社
<p>1 上の趣旨 での特長 の旨・本 長内容を 踏まえ、 第二期 豊かな な人間 教育の 振興を 図る</p>	<p>(1) 容人のの教 間達目科 構像成的の 成「」特 となつ「及質 て育本に て成県「応 に教教じ る育育て る資がの か。目目「 る指標教 内す」育</p> <p>(2) れかを自統郷 せ深然・土 いるめに文「 る題つ化長 か。材学いや崎 が習て歴「 扱に理史の わ生解、伝</p>	<p>・全編の巻頭に、和・洋楽器の奏者、演出家など音楽にかかわる人物を取り上げ、生き方の指標になるような示唆を含むメッセージを掲載することにより、音楽の美しさやすばらしさ、音楽家の深い思いに触れ、豊かな情操をはぐくむことができるよう配慮されている。</p> <p>・各学年の口絵に、和・洋の著名な作曲家の史実に基づいた創作物語と直筆譜を掲載し、作曲家の楽曲に対する深い思いが実感できるよう配慮されている。</p> <p>・「日本の民謡と芸能」において、「長崎くんち」についての説明文と写真が掲載されており、郷土「長崎」の伝統・文化の理解に生かすことができる。また、2・3年上巻の「Let's Try!」では郷土の民謡や芸能についての調べ学習を設定し、それぞれの由来や特徴を調べることで、一層理解を深めることができるよう配慮されている。</p>	<p>・各学年の巻頭、巻末の口絵に日本各地の音楽祭、我が国の代表的な環境音、我が国の伝統的な音楽や芸能など、幅広いジャンルの音楽を豊富に取り上げ、音楽を通して協働する喜びや心の癒しを実感しながら学習を進めることができるよう配慮されている。</p> <p>・2・3年上、下巻の巻頭に外国の著名なホールの写真と解説を掲載し、諸外国の音楽文化について理解を深めることができるよう配慮されている。</p> <p>・「日本の民謡」では「長崎ぶらぶら節」、「受け継ごう！郷土の芸能」では「長崎くんち」についての説明と写真が掲載されており、郷土「長崎」の伝統・文化の理解に生かすことができる。また「調べてみよう！」では郷土芸能についての調べ学習を設定し、一層理解を深めることができるよう配慮されている。</p>
<p>2 をを学 図踏習 るま指 上え導 でて要 の確領 特かの 長な目 学標 力や 内容 育成等</p>	<p>(1) さが基 れ礎 て確 実的 に・ 習基 か。得本 さ的 れな る知 よ識 う・ 工技 夫能</p>	<p>・1年の「Let's Try!」のコーナーでは、姿勢、呼吸、母音、変声と声域について、図と解説を用いて分かりやすく示すことにより、基礎的な歌唱の技能を身に付けることができるよう工夫されている。</p> <p>・器楽では、リコーダー、ギター、和楽器の奏法について写真や図・矢印を用い、角度や方向などをこまやかに記載することにより、それぞれの楽器の特徴を理解し、基本的な奏法を身に付けることができるよう配慮されている。</p> <p>・鑑賞では、我が国や諸外国の様々な音楽について、聴き取るポイントを示して聴き比べる活動や、音楽の価値や意味などを考える「伝えてみよう！」のコーナーを設けるなど、音楽の特徴をとらえやすくなるよう工夫されている。</p>	<p>・各学年の「My Voice」のコーナーでは、呼吸、姿勢、声の響かせ方などについて、分かりやすい図と解説を提示することにより、3年間を通して基礎的な歌唱の技能を身に付けることができるよう工夫されている。</p> <p>・器楽では、基礎的な学習として「Let's play instruments!」のコーナーを設け、「音を聴いて確かめよう」「Q & A」などにより、各楽器の特徴や奏法を理解し、基礎的な演奏技能を確実に習得できるよう工夫されている。</p> <p>・鑑賞では、楽曲ごとに鑑賞のポイントを具体的に示し、音楽を形づくっている要素を知覚し、曲想とのかかわりを感じ取ることができるよう工夫されている。</p>

具体項目

観点	発行者	教育出版	教育芸術社
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長	<p>(2) 知識・技能の習得に必要となる思考力、判断力、解决问题的能力を、課題を解決する力に活用しようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人物(教師、生徒)の吹き出しに、表現を高めたり、工夫したりするための手がかりとなる一言を示すことにより、生徒が自ら表現を工夫することができるようになっている。 鑑賞では「伝えてみよう」や「聴き比べてみよう」という記述欄を設けることで、曲を聴いて、自分が感受した音楽のよさや美しさを言葉で説明する活動が設定できるよう工夫されている。 器楽では「Let's Try!」のコーナーで、幅広いジャンルの曲を取り上げ、いろいろな楽器の組み合わせによる合奏を提示することにより、身に付けた基礎的な知識・技能を生かして表現を工夫することができるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Grade Up!」のコーナーでは、音楽の構成を調べたり、旋律の流れを比較したりする活動を通して、生徒が自ら表現を工夫することができるようになっている。 2・3年下巻の「曲のよさをプレゼンテーションしてみよう」では、曲想の変化を生み出している要素を聴き取り、その働きを考えたり、曲の良さを発表し合ったりするなど、創造的な鑑賞の学習ができるよう工夫されている。 器楽では、「アンサンブルセミナー」のコーナーにおいて、身に付けた基礎的な奏法を生かして、演奏を工夫していくための方法を具体的に示し、段階を追って豊かな表現ができるようになっている。
	<p>(3) 主体的に学習する習慣が身に付き、学習態度を工夫させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全編にわたって、学習のねらいに即した学習のポイントを示しており、生徒が主体的な活動を展開していく上で「目当て」となったり、「評価の指針」となったりするよう配慮されている。 全編にわたって、巻頭に演奏家や演出家からのメッセージが掲載しており、生徒の意欲をかき立てるよう工夫されている。 各学年の「Let's Try!」では、言葉を使ってリズムや音の重なりを楽しんだり、伝統芸能や民謡に親しんだりすることができるよう工夫されている。 各学年の鑑賞教材では、これから学習する楽曲の基礎知識や着目点を、生徒に分かりやすい文章で示し、主体的に聴き味わうことができるよう工夫されている。 器楽の「合わせて演奏しよう」では、比較的平易な楽曲を集めた「Let's Play!」と、それよりも難易度が高い「Let's Try!」のコーナーを設け、生徒の技能に応じて主体的に学習に取り組みせるとともに達成感を味わわせるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全編にわたって、学習目標に迫るための具体的な学習活動や手順を明確に示しており、生徒が主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。 各学年の「BINGO GAME」と「RHYTHM GAME」では、既習の音符、休符、記号の確認や、簡単なリズムづくりに楽しみながら取り組むことができるよう工夫されている。 1年では、鑑賞教材に映画音楽を取り上げ、興味・関心をもって学習することができるよう配慮されている。 器楽では、巻頭に演奏家のコメントを掲載することにより、生徒の興味を引き出し、楽器の演奏に意欲的に取り組むことができるよう配慮されている。 器楽の「Let's play instruments!」では、各楽器が演奏の中心となっている鑑賞曲を紹介し、それぞれのよさを感じ取って意欲的に練習することができるよう工夫されている。

具体項目

音楽

観点	発行者	教育出版	教育芸術社
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長</p>	<p>(4) いで活えるき動た全のるにり体つよ取しのなうりなまが工組がとり夫むらまをさこ、り考れと創をえてが作者た</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「音のスケッチ」では、創作の具体的な手順を示し、無理なく適切に学習活動が展開できるよう工夫されている。また、歌唱、器楽、鑑賞の音楽活動との関連付けを図るなど、創作の学習が深まるよう工夫されている。 ・2・3年上巻の「音のスケッチ 動機を生かした旋律をつくろう」では、例示されている「変化のさせ方」を参考にしながら旋律づくりに取りかかることができるよう工夫されている。 ・器楽では、アルトリコーダーの基礎的な技能の練習に即興的なリズム創作の要素を加え、感覚的に創作活動ができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の「RHYTHM GAME」では、学年の学習段階に応じてリズムパターンを発展させ、より複雑なリズムをつくることができるよう工夫されている。 ・「My Melody」では、旋律を創作するための学習内容や活動の手順を簡潔に示し、確実に取り組むことができるよう工夫されている。 ・各学年の「Let's Create!」では、イメージを基に、構成を工夫して音楽を創作するための学習内容や活動の手順を簡潔に示し、確実に取り組むことができるよう工夫されている。
	<p>(5) るで通表かき事現る項及よをびう理鑑な解賞題しの材、活構活動成用をとす通なるしてつこててといが共</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全編にわたって教材の左肩に「音楽を形づくっている要素」を踏まえた表現や鑑賞のポイントを、右肩に学習すべき音符、休符、記号を示すことにより、共通事項を理解し、活用できるよう工夫されている。 ・各学年の目次では、「音楽の要素を捉えながら」という項を示し、共通事項である音楽を形づくっている要素を理解、活用して、表現と鑑賞の幅広い学習が展開できるよう配慮されている。 ・各学年の「どんな特徴があるかな?」では、共通事項である音楽を形づくっている要素の動きに注目し、生徒それぞれが気づいたことや感じ取ったことを互いに話し合うことにより、学習内容が深められるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全編にわたって教材の左上に学習目標、活動内容、共通事項との関連を表したアイコンを、右下に学習すべき音符、休符、記号を示し、共通事項を支えとした学習が確実に行われるよう工夫されている。 ・「音楽学習MAP」では、学習内容と各教材の関係や、表現と鑑賞の関連を示すことにより、共通事項はもとより学習指導要領の「内容」に準拠したバランスのよい学習が進められるよう配慮されている。 ・「ここが分かればGrade up!」では、学習目標に迫るための活動やその手順を明確に示し、共通事項と関連させながら学習内容を深めることができるよう工夫されている。 ・各学年の「心通う合唱」と器楽の「Ensemble」では、教材の右上に曲の特徴や歌う際のポイントを簡潔に示し、共通事項と関連させながら学習内容が深められるよう配慮されている。
	<p>(6) るち我がよう、がう理国工解の音夫を深め文化を関心できも</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では、「日本とアジアをつなぐ音」や「日本と世界をつなぐ音」において、日本とアジアや西洋との、楽器、民謡、芸能のかかわりについて写真や解説を掲載し、音楽の多様性を感受するとともに我が国とアジアや西洋の音楽とのつながりについて考えることができるよう工夫されている。 ・器楽では「和楽器」として箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八を扱い、それぞれの基礎的な奏法や楽器の特徴を示すとともに、和楽器による合奏曲や箏による名曲の旋律を掲載することにより、我が国の伝統音楽や文化を理解し、発展的な学習ができるよう工夫されている。 ・器楽では、「発展」コーナーで、塩化ビニールの水道管を使った横笛の制作の仕方を示すとともに様々な日本の横笛を紹介し、我が国の音楽文化への関心が高まるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材のほかに、各学年に「歌い継ごう日本の歌」のコーナーを設けて、合唱曲として童謡や唱歌などを取り上げ、合唱の楽しさを味わいながら我が国の音楽文化に対して関心が高まるよう工夫されている。 ・器楽では、「和楽器」として箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八を取り上げ、平易で取り組みやすい独奏曲や合奏曲を掲載し、表現活動を通して伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫されている。 ・鑑賞では、鑑賞曲が作られた時代の西洋の音楽史と日本の歴史を比較できるように「この頃、日本では...!?」のコーナーを示すことで、我が国の音楽への関心が高まるよう工夫されている。

具体項目

観点	発行者	教育出版	教育芸術社
<p>3 学習効果や使いやすさ、見やすさ等、ユニバーサルデザインの視点からの表記・表現や体</p>	<p>(1) なく、文章の記述は、内容と分量ともなっており、豊か</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作の学習で、やや難易度の高い課題にも詳しい解説があり、生徒が理解を深めながら創作活動を行うことができるよう配慮されている。 ・ 2・3年下巻の、「私たちのくらしと音楽」では、著作権の意義や守るべき事項についてQ & A形式で分かりやすく記述されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2・3年下巻の「国境を越えて影響し合う音楽」では、明治以降の我が国の音楽について解説し、他教科の関連する既習事項と結び付けて読むことで、理解を深めることができるよう配慮されている。 ・ 2・3年下巻の「ルールを守って音楽を楽しもう！」では、生徒の疑問に答える形で著作権について解説されており、理解しやすい記述となっている。
	<p>(2) 慮意写さと欲真、れのを、て関高挿、い連め絵、るや、か。学と表、習もな、効果に、は、十学、分習学配内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器楽では、コードの譜例と対応するギターのダイアグラム及びキーボードの位置をわかりやすく示し、生徒が自主的に練習することができるよう配慮されている。 ・ 鑑賞では、曲の形式や構成を理解しやすくするために、楽譜を色分けするとともに、関連する写真を掲載することによって、学習効果が高まるよう配慮されている。 ・ 器楽では、楽器の基本奏法にかかわる写真やイラストを多数掲載するとともに、重要な部分には囲みや色を付けることにより、学習効果が高まるよう配慮がされている。 ・ 歌唱共通教材や鑑賞教材には、大きく鮮やかな写真を掲載し、歌詞の表す情景や曲について視覚的なイメージをもって表現したり鑑賞したりすることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作では、過程をイメージしやすいような図が示されるとともに、教科書に書き込みながら学習が進めやすいよう配慮されている。 ・ 鑑賞では、曲の形式や構成等を理解しやすくするために楽譜を色分けするとともに、地図や写真を掲載することによって、学習効果が高まるよう配慮されている。 ・ 器楽では、楽器及び基本奏法にかかわる写真やイラストを多数掲載するとともに、各コーナーを囲んで分かりやすく示すことにより、学習効果が高まるよう配慮されている。
	<p>(3) るは紙のレ、か、質大イ、適、きア、切製、さウ、に本、挿、配等、慮に、絵色、さつ活、れつ活、てい用文、いて、字</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器楽では、楽器の種類別及び楽譜にインデックスを設けることで、検索しやすいよう配慮されている。 ・ テーマごとに目次と各ページの左肩の色を揃えて示すことで、表現と鑑賞の関連を考えた指導がしやすいよう配慮されている。 ・ 鑑賞のページでは、右端に音楽史年表を帯で示し、教材曲が音楽の各時代のどこに位置するのか一目で分かるよう配慮してある。 ・ 同一ページの中でも、文字の種類、サイズ、太さ、色を使い分けて、解説が読みやすくなるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器楽では、楽器の種類及び教材曲のまとめごとに、ページの上下を項目別に色分けし、検索しやすいよう配慮されている。 ・ 巻末の合唱コーナーにインデックスを設けることで、検索しやすいよう配慮されている。 ・ 丸背の中ミシン綴じで製本し、教科書を開いた状態を保ちやすいよう配慮されている。 ・ レイアウトに統一感があり紙面全体として区別しやすい配色を用いているため、見やすさ読みやすさについて配慮されている。